

CT/MRI検査に関する注意事項

安全に検査を行うために、以下の注意事項をお読みください

CT検査

● 検査時に注意が必要な体内外の医療機器について

① 植込み型ペースメーカー

本品を植え込んだ患者のX線CT検査に際し、本体にX線束が連続的に照射されるとオーバーセンシングが起こり、ペースング出力が一時的に抑制される場合があるので、本体にX線束を5秒以上照射しないように十分注意すること※1

② 植込み型除細動器(ICD)

本品を植え込んだ患者のX線CT検査に際し、本体の植込み部位にパルス状の連続したX線束が照射されるとオーバーセンシングが起こり、本品が適切な治療の一時的な抑制または不適切な頻拍治療を行う可能性があるため、本体の植込み部位にX線束を照射しないように十分注意すること※1

③ インスリンポンプ・持続グルコース測定器

インスリンポンプ・持続グルコース測定器は磁気の影響を受ける可能性があります。検査前に必ず取り外しをお願いいたします。※2

※1 医政総発第1125001号、医政総0924第3号

※2 (公社)日本糖尿病協会 ホームページ内 お知らせ 2017.9.1
(ページ下部の図表は同協会より出典掲載許可を得たものです)

当院の見解

① 植込み型ペースメーカーについて。

当院のCT装置で、胸部を含む通常のCT検査を行う場合、本体に連続した5秒以上の照射を行う可能性は少なく検査をお受けできます。しかし、特殊な検査では連続した5秒以上の照射が行われる可能性もあります。リスク回避のためにペースメーカー装着患者である旨を予めお知らせください。

② 植込み型除細動器について。

秒数に関係なく照射しないよう注意することとあるため、ICDを植え込まれた患者様につきましては、部位によっては検査をお断りさせていただく場合がございます。

③ インスリンポンプや持続グルコース測定器について。

取り外し後の検査は可能ですが、放射線科としては当該機器の取り外しや取付などには行いません。ご自身での正しい取扱いができる方のみ検査をお受けする旨、ご了承ください。

● 造影CT検査における禁忌事項について

禁忌 ヨードまたはヨード造影剤に過敏症の既往歴
重篤な甲状腺疾患（コントロールされていない亢進症）

原則禁忌

- ・ 一般状態の極度に悪い患者
- ・ 気管支喘息：副作用の発現頻度が高い
- ・ 重篤な心障害：血圧低下、不整脈、頻脈を引き起こす可能性がある
- ・ 重篤な肝障害：症状が悪化する恐れがある
- ・ 重篤な腎障害：排泄障害から急性腎不全等を引き起こす可能性がある
- ・ マクログロブリン血症：静脈性胆嚢造影剤で血液のゼラチン様変化をきたし死亡した報告がある
- ・ 多発性骨髄腫：多発性骨髄腫の患者で特に脱水症状のある場合、腎不全(無尿症)を引き起こす可能性がある
- ・ テタニー：血中カルシウム低下により症状が悪化する恐れがある
- ・ 褐色細胞腫および疑い：血圧上昇、頻脈、不整脈等の発作が起こるおそれがある

参考文献 造影剤の適正使用ガイド 臨床画像 vol.23, No.1, 2007
腎障害患者におけるヨード造影剤使用に関するガイドライン2018

当院の見解

添付文書にある禁忌・原則禁忌に該当する場合、原則的に検査をお断りさせていただいております。必要に応じて各診療科医師にご相談いただき、患者さまには各診療科を受診いただきますようお願いいたします。

MRI検査

● 造影MRI検査における禁忌事項について

- 禁忌**
- ・ ガドリニウム系造影剤に過敏症の既往歴のある患者
MRI用造影剤副作用既往歴あり→副作用出現率21%
CT用 " " " →副作用出現率 6%
 - ・ 気管支喘息の患者：過去に死亡例あり
 - ・ 重篤な腎障害のある患者：NSFが報告されている
NSF:Nephrogenic Systemic Fibrosis 腎性全身性線維症
 - ・ 重篤な肝障害のある患者
 - ・ 一般状態の極度に悪い患者

参考文献 腎障害患者におけるガドリニウム造影剤使用に関するガイドライン 2009 日本医学放射線学会

当院の見解

CT検査と同様に添付文書にある禁忌に該当する場合は、原則的に検査をお断りさせて頂いております。各診療科医師にご相談いただき、患者さまには各診療科を受診いただくようお願いいたします。

● 造影CT/MRI検査における血清クレアチニン値 およびeGFR値について

当院の見解

ガイドライン（腎障害患者におけるヨード造影剤使用に関するガイドライン2018）改定に伴い、eGFR値では60mL/min/1.73m²以上、血清クレアチニン値では、男性1.2mg/dL、女性では1.0mg/dL以下を造影可能な閾値とさせていただきます。また、造影剤使用同意書に記載いただく血清クレアチニン値およびeGFR値の有効期限を有効期限を検査日より3か月以内とさせていただきます。

● 副作用出現時の対応

検査中または検査直後に造影剤による副作用が出現した場合には、造影担当看護師がバイタルサインチェックや徴候の確認を行い、副作用の程度のトリアージを行います。

軽度の副作用と判断された場合には、お休みいただいた後、事前に案内された方法で離院いただきます。中等度以上の副作用と判断され場合には、院内での取り決めに従い医師への救援要請を行い、医師の判断により処置が行われることがあります。程度によっては入院加療などの濃厚な処置が必要となることがあります。その際はご依頼の医療機関には患者サポートセンターを通じ連絡をいたします。

造影剤の副作用には稀にですが造影後数時間～数日内に出現する「遅発性副作用」があります。遅発性副作用の多くは掻痒感や皮疹などの軽度なものが多いですが、このような症状が出現した際には時間を問わず、小千谷総合病院までご連絡ください。

● 検査中に至急加療を要する所見があった際の対応

検査時に脳出血や急性期脳梗塞、重症な骨折など、離院させることが困難と思われる所見に診療放射線技師が気づいた場合や予測不可能な容態急変に遭遇した際、技師は院内の取り決めに従い、医師に所見や患者の状態を報告します。報告を受けた医師は加療や入院、もしくは転院などの措置についての判断を行います。離院が可能と判断された場合は事前に案内された方法で離院いただきます。離院が難しく加療や転院などが必要と判断された場合にはご依頼の医療機関に患者サポートセンターを通じ連絡いたします。

インスリンポンプ・持続グルコース測定器は磁気の影響を受ける可能性があります。検査前に必ず取り外しをお願いいたします。

インスリンポンプ

ミニメド620G
【日本メドトロニック(株)】



パラダイム722
【日本メドトロニック(株)】



TOP-8200
【(株)トップ】



持続グルコース測定器 (CGM/FGM)

iPro2
ミニメド 620G トランスミッター
【日本メドトロニック(株)】



FreeStyleリブレセンサー
FreeStyleリブレProセンサー
【アボットジャパン(株)】



取り外しが必要なもの

療法	製品名	装着・携帯しているもの	X線	CT	MRI
CSII	TOP-8200	注入セット	必要なし	必要なし	必要
		ポンプ本体	必要	必要	必要
	ミニメド620G パラダイム722	注入セット	必要なし	必要なし	必要なし
		ポンプ本体	必要	必要	必要
CGM FGM	FreeStyleリブレセンサー FreeStyleリブレProセンサー	センサー	必要	必要	必要
	iPro2 ミニメド620Gトランスミッター	センサー	必要	必要	必要
		トランスミッター・レコーダー	必要	必要	必要

各製品の使用方法については各社コールセンターまでお問い合わせください。

日本メドトロニック株式会社 24時間サポートライン 0120-56-32-56 受付時間 24時間 365日
株式会社トップ 03-3882-7741 月曜～金曜 8:30～17:30 (祝日・会社休日を除く)

※お問い合わせは医療従事者の方に限らせていただきます。

アボットジャパン株式会社 お客様相談窓口：0120-37-8055 受付時間：【月曜～金曜】8:00-20:00、【祝祭日】8:00-17:00
お客様相談窓口メールアドレス (常時受付)：adc-cs.jp@abbott.com



取り外し方法

インスリンポンプ

ミニメド620G/パラダイム722



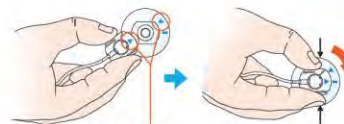
① 注入セットからチューブを取り外します。



② ポンプとチューブを体から取り外し、清潔な場所に保管します。



③ 検査後、再びチューブを取り付けます。



▼と▲が合う位置が接続部の着脱ポジションとなります。

TOP-8200



① 注入セットを体から外します。



② ポンプを体から取り外し、保管します。



③ 検査後、新しい注入セットを取り付けます。



持続グルコース測定器 (CGM/FGM)

iPro2/ミニメド620Gトランスミッター



① 粘着タブをCGM本体から慎重に外します。



トランスミッター

② センサーからCGM本体を取り外した後、センサーをそっとはがします。



- 1 センサーの両端のつまみを人差し指と親指でしっかりつまみます。
- 2 CGM本体をセンサーから取り外します。
- 3 センサーをはがします。

③ 検査後、新しいセンサーを装着し、CGM本体をセンサーに取り付けます。



FreeStyleリブレセンサー



① センサーの粘着部の端を引き上げて、一回の動作で皮膚からゆっくりとはがします。



② 検査後、新しいセンサーを装着し、起動します。

FreeStyleリブレProセンサー



① センサーの粘着部の端を引き上げて、一回の動作で皮膚からゆっくりとはがします。

※センサーには装着期間中の測定データが保存されています。取り外したセンサーの取り扱いについては、かかりつけの医療機関にご相談ください。
※新しいセンサーの装着についてもかかりつけの医療機関にご相談ください。